

令和7年産リンゴを振り返る



販売課
田村 慎平

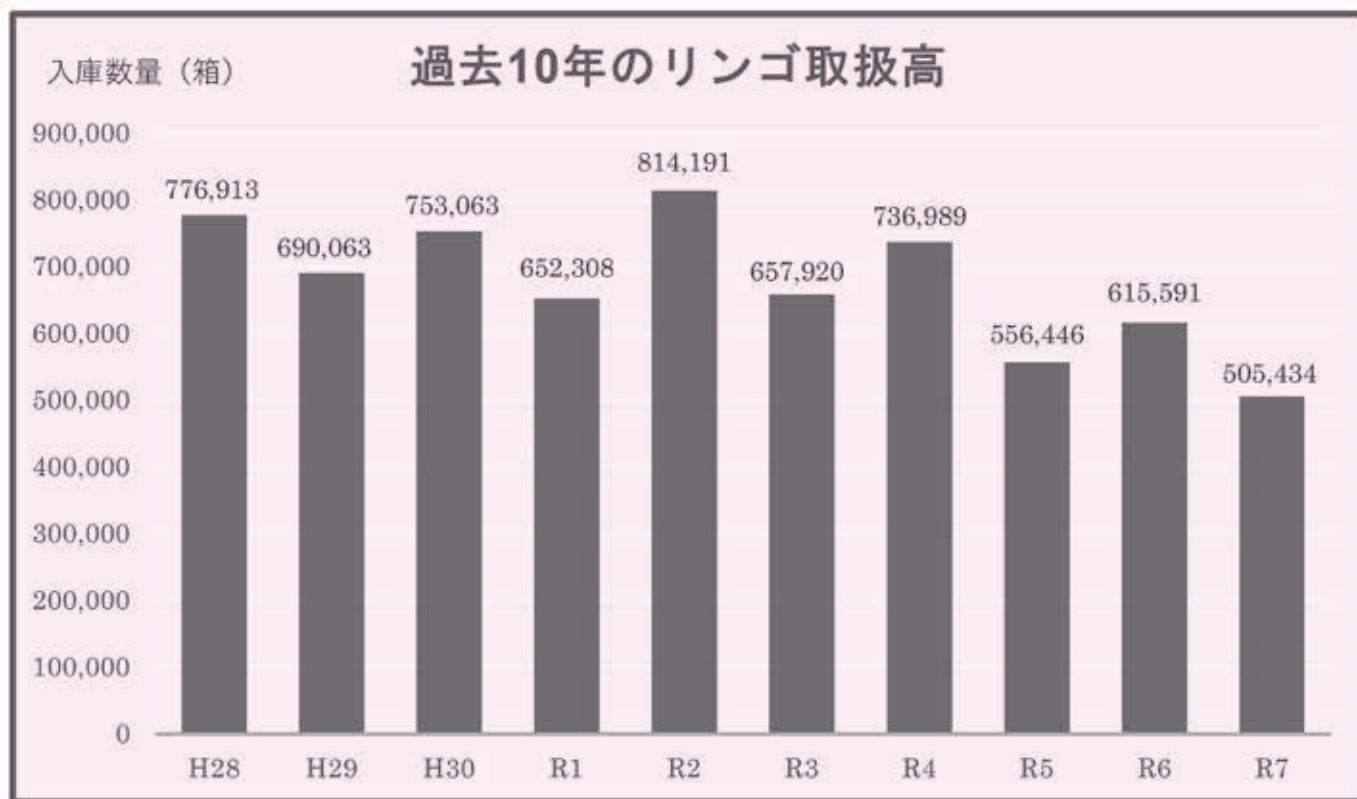
晩生種総販売金額 26億1521万1503円

豪雪と猛暑がもたらした令和7年産

令和7年産りんごの県内JA合計集荷数量は4,569,021箱（前年比88%）、当農協は505,434箱（同82.1%）にとどまりました。これは過去10年間で最低だった令和5年産を下回り、平成3年の台風被害以来の大幅な減収です。要因の第一は歴史的豪雪です。令和6年12月から令和7年3月にかけて青森県では、12月に観測史上初の積雪1メートル超え、2月23日には観測史上2位の177センチを記録。消雪が平年より9日遅れたことで樹体損傷や野ネズミ被害が発生し、平成17年を上回る

豪雪被害となりました。さらに、消雪の遅れで剪定や前の薬剤散布も遅れ、結実不良やその後の虫害を招きました。一転して春先以降は、気温が急上昇し、6・7月の平均気温は観測史上最高、真夏日は、最多の52日を記録。果実肥大期の少雨による小玉傾向やビターピット日焼け果が多発し、8・9月の多雨はつる割れを助長しました。その他にも、9月の強風による落果、鳥獣害やカメムシ等の虫害が多発し、集荷数量の減少だけでなく下位等級品の比率が高まる極めて厳しい年となりました。

品 種	最高価格(円)	大小込平均価格(円)
ふ じ	11,487	9,760
サンふじ	8,297	6,669
む つ	12,550	11,197
王 林	6,602	5,155
ジョナゴールド	8,189	6,780
シナノゴールド	6,556	5,111
飛馬ふじ	9,580	7,949
葉取らずサンふじ	7,687	5,875
葉取らず有袋ふじ	10,058	9,063



早生・中生種りんごの流通と販売動向

早生種のスタートは、長野県産サンツがるが小玉・日焼けにより品薄となったことで、価格が高騰する形での幕開けとなりました。

これに連動して県内の産地市場でもサンツがるは高値で取引され、小売価格も高めに設定されました。

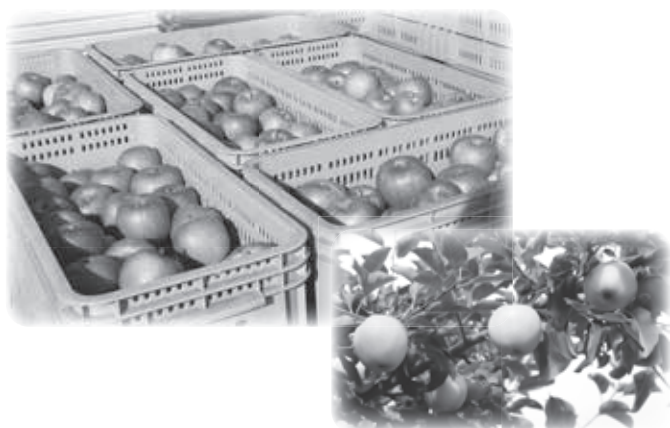
この時点からすでに小玉や下位等級品の割合が高く、年間を通してこの傾向が続くこととなります。数が少ない上位等級品は安定して引き合いが見られ、価格も堅調に推移した一方、大半を占める下位等級品は厳しい販売を強いられました。品質に対して売価設定が高かったことも影響し、荷動きは終始鈍いものとなりました。

最終的にサンツがるの価格は、全農あもりのデータで前年比124%と高値で売り切ることができました。

市場や末端の小売では、在庫を多く抱えたまま、次の中生種の販売へと移行していくこととなりました。中生種については、早生種の在庫が多く残っていたため、品

種の切り替えが後ろ倒しとなりました。特に黄色品種に関して切り替えが進まず、流通の大部分を占めた小玉果を中心に厳しい販売を強いられました。

いずれの品種も出荷数自体は少なかったため、売り始めの売価設定は高めになっていたものの、市場の引き合いの弱さを受けて、その後は徐々に価格が下がっていく傾向となりました。



晩生種 販売経過報告

晩生種については、競合果実である柿、ミカン、イチゴが安定した入荷と値ごろな価格で推移したため売り場が広く取られ、りんごの売り場は縮小傾向となりました。

長野県産サンふじは早生・中生種同様に品薄を受けて高値でのスタートとなりましたが、引き合いは弱く、大部分を占める小玉・下位等級品は品質に対して売価が高くなってしまったことから、荷動きは終始鈍いものとなりました。

た。それでも県全体で在庫量が少なかったため、県内のJAをまとめると12月末時点で未出荷の在庫数量は前年比93%、前々年比86%となり、在庫が少ない中で年明け以降の販売を迎えました。

1月以降もりんごの売り場はあまり広がらず、荷動きが鈍い中で徐々に価格が下がっていく展開となりましたが、他JAが4月末頃でサンふじの販売を概ね終了したため、月以降は当JAの出荷が加速していきました。サンふじは、夏季の干ばつの影響からか果点でのサビが多く見られましたが、内



部の褐変発生率は平年よりかなり少なく、硬度も販売終了まで平年よりやや高い数値のまま推移しました。

りんごの輸出動向と 年末ギフト販売実績

輸出については、初期の「きおう」「トキ」でのビターピット多発が「名月」へも影響し、年内の黄色品種は低調となりました。一方、「シナノスイート」は引き合いが強く堅調に推移しました春節以降の出荷ピークは1月となりましたが、台湾・タイ・ベトナム向けにサンふじ・金星・王林などが順調に出荷されました。

しかし香港向けは初期の不調が響き、王林の販売は限定的に留まりました。春節以降は大玉・上位等級品の需要が高かった一方、小玉・下位等級品は品質に対する売価の高さから引き合いが弱く、全体の出荷量は前年比91%となりました。特に台湾市場では、日本産が大幅な高値により前年比93%と微減した一方、安価なニュージー

ランド（269%）やアメリカ（123%）が急増しており、輸出販売における他国産との競合激化が顕著となっています。

年末のギフト販売は、需要が高く、出荷数量は前年比103%、売上金額は前年比107%と右肩上がりを維持しました。国内の一般販売では売価の高さがネックとなったものの、ギフト市場においては、価格が高くとも良品質を求める需要が依然として高いことが伺えます。



令和8年産 りんご取扱要項 変更点

1. 全品種 クズ・青実込みの入庫となります。

品 種	特 大	上 実
サンふじ・ふじ	32玉以上（クズ・青実込） 330g以上	36～60玉（クズ・青実込） 329～170g以上
世界一	20玉 270g以上	
その他（木箱含む）	60玉 170g以上	

○「サンふじ」「ふじ」のみ特大・上実選果していただき、

特大に山選果料として500円（税込）を支給いたします。

○「サンふじ二次」特大はなく、上実入庫のみとなります、

○170g未満おピンコ（世界一は270g未満）も入庫受付します（木箱での入庫）

○イフコでの取り扱いはありません。

○「省力選果サンふじ」は廃止になります。

2. 「葉取らず早生ふじ」の取り扱い開始

○早生ふじ（着色系、スタンダード問わない）を対象とし、丸葉、ワイ化問いません。

○入庫時は**昂林、早生ふじ、ほのか、涼香の季節を一本化して**いただき、精算は12月。

○支柱入れ、反射シートなど着色管理を実施してください。

**8年産りんごの販売と
『本物の味』を届ける決意**

令和7年産りんごは様々な被害に見舞われて過去最低レベルの減収となりました。

これまでは数の少ない年は価格が上がる傾向となっていました。が、今年は全品種の平均価格が前年比96%に留まり、価格が上がりきらない異例の結果となりました。近年の高値傾向もあり、消費者の目もこれまで以上に厳しくなっています。しかし、こうした厳しい時代だからこそ、皆様がごだわりを持って実らせる『本物の味』が、消費者の心を動かす最大の鍵となります。購入された方に心から満足していただけるよう、引き続き高品質なりんごの生産をお願い申し上げます。

皆様の汗と努力を決して無駄にいたしません。販売課も一丸となって全力で並走し、8年産りんごの有利販売と全国への価値発信に努めてまいります。共に次の素晴らしい実りを迎えるため、歩みを進めてまいります。